

リバーサイド周辺のまちづくりに関する

# 提言書

平成19年11月11日

社団法人 釧路青年会議所

くしろの宝創造委員会

# 目次

■目次	1
■はじめに	2
■まちづくりの現状と課題	3
■まちづくりの方向性	4
■理想のまちづくりビジョン	5
■提言のイメージ(図)	6
■提言	7

## 提言によるリバーサイド周辺の再生計画

提言1	8
提言2	9
提言3	10
提言4	11
■終わりに	12
■参考資料	

## はじめに

(社)釧路青年会議所は年年歳歳「まちづくり」団体として、地域の皆様からのご指導を仰ぎながら、現在考慮すべきまちづくりに対する理念とは如何なるものか、如何なる方策が最善なのかを真剣に探求し、その時に存在するまちの問題を市民から掘り起こし、その時代に合致した政策を提言し、市民意識の改革を目標に活動・運動を推進して参りましたが、早いもので本年度55年の年月が経過いたしました。その永年の我々のまちづくり運動において、行政をはじめとします関係諸団体並びに地域の皆様に、多大なるご支援・ご協力をいただきましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、2007年度(社)釧路青年会議所は『Good Challenge 価値ある挑戦！ Take the Lead 勇気ある率先！～信念ある行動力が「まち」を動かす～』をスローガンに、青年としての視点と行動力で、「明るい豊かな社会」実現に向けて活動・運動を展開して参りました。その中でも本年度設置した「くしろの宝創造委員会」を中心に、くしろ地域の「宝」と呼べるものを改めて認識し、本当にこの地域が「明るい社会」となるには、自分たちの宝を誠心誠意その英知を結集して磨く努力を惜しまず、あらゆる障害をも勇気をもって乗り越え、自らのまちを自分たちの手で創造する情熱と、己のまちに対する誇りと郷土を愛する気概を強く抱き、この地方分権の時代に経済面のみならず精神的部分においても自立した「くしろ」を作り上げていくことが緊急の課題であると判断し活動・運動を展開して参りました。

素敵なまちづくりの根底には、地域住民一人ひとりがその主役である意識を持つことが重要であり、現実的にまちを動かすためには率先した行動力と、信念をもった組織力が必要であると考えます。我々青年会議所は、日日之精進し己の修練と社会への奉仕を旨としこの地域の「明るい豊かな社会」の可能性のある実践的方策を提言して参りました。今後も歴史と伝統ある志と政策実行集団としての意志をより一層高め、この地域に暮らす全ての人々が笑顔を絶やさず、自分のまちに誇りを持ち、心から好きと言える「くしろ」を目指し活動・運動をしていく所存です。今後も地域の皆様のご指導ご鞭撻並びにご支援ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

平成19年11月11日

社団法人 釧路青年会議所 理事長 石割宗仁

## まちづくりの現状と課題

私たちの街釧路は、平成17年10月に旧阿寒町と旧音別町と合併し2年が経過しました。この新生釧路市は阿寒国立公園、釧路湿原国立公園の2つの国立公園を持つ他の都市にはない街になり、自然や風景についての魅力が大幅に増大しました。「北海道の魅力についてのアンケート」という資料(別紙参照)をもとに、旧釧路市と旧阿寒町の魅力の数値を合算したものを新生釧路市のデータとした場合、「自然や風景の魅力」は単純計算以上の効果をもたらしてくれます。「食」に関しては、阿寒が弱い分を釧路が補い、「宿泊」に関しては釧路が弱い分を阿寒が補い、「買物・土産の魅力」に関しても阿寒が弱い分を釧路が補うという相互補完の関係が成り立ちます。しかしそれでも互いに補うことが出来ない分野があります。それが「街並みの魅力」です。つまり、新生釧路市になっても都市部に人を集める要素が弱いという部分は変わらず、それがこの街がなんとなく寂しくうつってしまう原因なのではないでしょうか。アンケート結果によれば、街並みの魅力が不足しているわけですから、この釧路に新たに街並みの魅力を加えることで、まんべんなく各分野の魅力を兼ね備えた街とすることができ、本当の「魅力ある街釧路」へ変貌していくものと考えます。

私たちは街並みの魅力が不足していると述べましたが、その主な原因は何なのでしょう。それは「中心街の魅力の低下」だと考えます。全国的に地方都市には大型郊外店が進出して、その地区一部分的には賑わいを見せているようですが、かつての駅を中心とした、いわゆる中心街はみなシャッター街と化してしまっていると聞きます。ご存知のとおり釧路も例外ではなく、釧路の中心街は広大な駐車場を持つ郊外店に勝てなくなっていました。

中心街と言える駅から幣舞橋までの北大通りとその周辺については、少し前までは、人がたくさん歩いていました。市民の観点から見るとデパートを初めとした地元のお店が沢山あり、学生も時間をつかう場所が沢山ありました。観光の観点からもMOOが元気で岸壁にはクルーズ船が係留されていて人の賑わい共々十分に期待をさせるものでした。

しかし現在は、そのような賑わいは感じられません。私たち釧路市民は私たちの手で今一度「中心街の賑わい」を取り戻すべきなのです。

さて、この「中心街の賑わい」を取り戻すため必要なものが2つあります。それは、ほかでもない、私たち釧路市民のまちづくりへの積極的な意識と、行政と手を取り合って共にまちを作っていくという意識です。私たちはまず市民のまちづくりへの意識に関して「幣舞橋イルミネーション事業」でアンケートを収集し、集計結果を円グラフにし(別紙参照)、検証いたしました。特に問4イルミネーションはまちづくりにつながると思いますかの問いに関して、61%の人がイルミネーションは街づくりにつながるという感想を持っており、イルミネーションは売りになる、雰囲気は街のカラーになる等の意見をお持ちの方もいらっしゃり、釧路の市民の街づくりへの意識は決して低いものではないということがわかりました。さらに、このような意見が増えるようなことになれば、街づくりの意識の高まりにより街づくりは意外と簡単にできるかもしれないと感じました。当初、「幣舞橋イルミネーション事業」は、固定物を設置できないと規制され、行政より難色を示されました。しかし相談を重ね、私たちの街づくりの姿勢を徐々に理解していただき行政の協力も得られ、上記のような規制をされることなく、実施することができました。このような行政と手をより多く取り合って街づくりを行うことが必要となっていくのです。今後、ますます地域主権の重要性が増していきます。行政と地域住民の信頼が強ければ強いほど魅力ある街になっていくと私たちは考えます。

## まちづくりの方向性

私たちは「中心街の賑わい」が「魅力ある街釧路」へ向かうということになると前段で述べました。中心街が賑わいを街全体に波及させることができる一番適した場所なのです。郊外が賑わっていても街全体に活気は伝わりません。人が集まるポイントが散在していてもその賑わいは街全体には伝わらないのです。

釧路の中心街を活気付けさせることができれば、その活気を放射状に広げることができ、街全体が活気付くこととなります。釧路と言えばこの場所と言えるような、街の基幹となる場所を作り、そこを中心に人々の活動を促し、それにより街づくりの効果が派生して街全体が活性化していくというのが理想的なのです。

「街並みの魅力」を考えた時、伝統的な景観、住環境、統一された景観などが上げられます。中心部の風景もその1つと言えるでしょう。しかし閑散とした風景は魅力的とはとても言えません。そこにはやはり賑わいが必要になります。

さて、賑わいの元となる人が集まる地理的な条件とは一般的には何でしょうか。

- ①人が一定時間とどまることができる場所がある。
- ②釧路の気候を考慮して外気から遮断される場所がある。
- ③人が集まっていることが周囲から見てわかる場所がある。
- ④周囲に他に人が行ける場所がある。

①に関しては、人がとどまることができなければ、単なる通り道になってしまいます。人が一定時間とどまって楽しむことができ、また、一定時間とどまるための設備等が必要になると思います。②に関しては、釧路の場合は、夏でも夕方はかなり冷え、冬では極寒という状況になります。いくらきれいな景色があっても外気から遮断されなければ人が一定時間とどまることはできません。③に関しては、人がいないところに人は集まりません。人が集まっても人が集まっているように見えなければ、人がさらに集まることはないように思います。人が集まっていることが周囲から認知されるというのが重要であると思われます。最後に④に関していえば、単体で人が集まる場所があったとしても、行き先がその場所しかなければ、すぐに飽きもきてしまい、いずれその場所には人が来なくなってしまいます。周囲に人が行ける場所があって、集まった人が周囲に流れることができるという条件も人が集まるということに必要になると思います。

上の4項目を考慮しながら、釧路の歴史を見てきた建造物があり、そしてこの街の代表的なイメージである場所、私たちはそこが釧路川河口のエリア、すなわち「リバーサイド」であると考えます。ここに輝きを加え強化することが「魅力ある街釧路」へと繋がっていくのです。

## 理想のまちづくりビジョン

魅力ある街くしろへ向けてまちづくりを進めていく事で、数年後のリバーサイドにどのような変化が見られるのでしょうか。数年後の理想のビジョンを創造してみましょう。幣舞橋周辺からMOOのベイエリアにおいて、かなりの変貌が見られるはずです。

まずは釧路市観光国際交流センター前の幸町緑地。霧フェスティバルや大漁どんぱくのときくらいしか、人が集まる光景を見ることができないこの場所は、親水公園が整備されることで、何もない平日でも、若い親子連れなどが楽しく遊ぶことができ、こども遊学館とのシャトルバスなどの運行も考慮することで人の流れを確保し、駐車場の無料化などを検討することで、常に人が集うスペースとして生まれ変わります。

また夕方には、インターネットでも確認できる世界三大夕日をまちづくりに利用することで、市民には近すぎて当たり前になっている、この素晴らしい夕日を利用し、あたかも「異国」にいるのかと思わせるほどの演出を考え、大勢のアマチュアカメラマンがレンズを向け、恋人たちが肩を寄せ合うリバーサイドを構築し、そしてMOOにはその夕日が一望できる展望スペース、サンセットカフェなどを整備し、おしゃれな生演奏でコーヒーが飲みながら夕日を楽しめる最高の場所を造りあげます。さらに河口には整備を終えた耐震バースがあり、日本最大の大型旅客船「飛鳥」なども夕日を背に見ることができるでしょう。夕日を背にした美しい旅客船のシルエットもまた港町ならではの光景であり船上からみるこの釧路の夕日も最高の街並みを演出してくれることでしょう。

夜が近づいてくると、MOO横の岸壁には屋台を並べ営業を始めます。初めは期間限定の営業でも将来は通年の営業を目指すこの屋台には、サンマをはじめサバ、クジラ、サケさらには農産物まで、釧路ならではの地元食材をフルに生かした屋台とし、さらに価格もリーズナブルなものとするので、会社帰りのサラリーマンやOL、観光客で賑わう岸壁となるでしょう。

さらにMOOの内部は、札幌以外の道内ではここだけという、有名ブランドショップや、市民も買い物に行けるような食料品店をそろえ、観光客と市民が共に買い物ができる場所を目指し、また中央アトリウムからも、FMくしろなどの公開生放送を実施するなどし、釧路のよさを発信していくのです。

野外イベント広場は、単なるお祭り広場ではなく、野外コンサートを出来るスペースとして整備することで、今までにない数万人規模のコンサートも可能となり、全道、全国からもそれを観に人が集まってくることで、その経済効果は計り知れないものがあり、そして普段は市民が気軽に利用できる場所とすることで、通年の利用を促し管理するのです。親水公園と隣接することで、その相乗効果により、にぎわいの絶えない場所となることでしょう。

さらに夜にはイルミネーションを活用することで、観光の名所である幣舞橋やリバーサイドをロマンティックなベイエリアに演出し、旅行雑誌やテレビなどで宣伝できる場所を造りあげます。

このイルミネーションは夏と冬で、演出を変えることで通年を通して楽しむ事ができる、くしろの新たな観光スポットとなることでしょう。

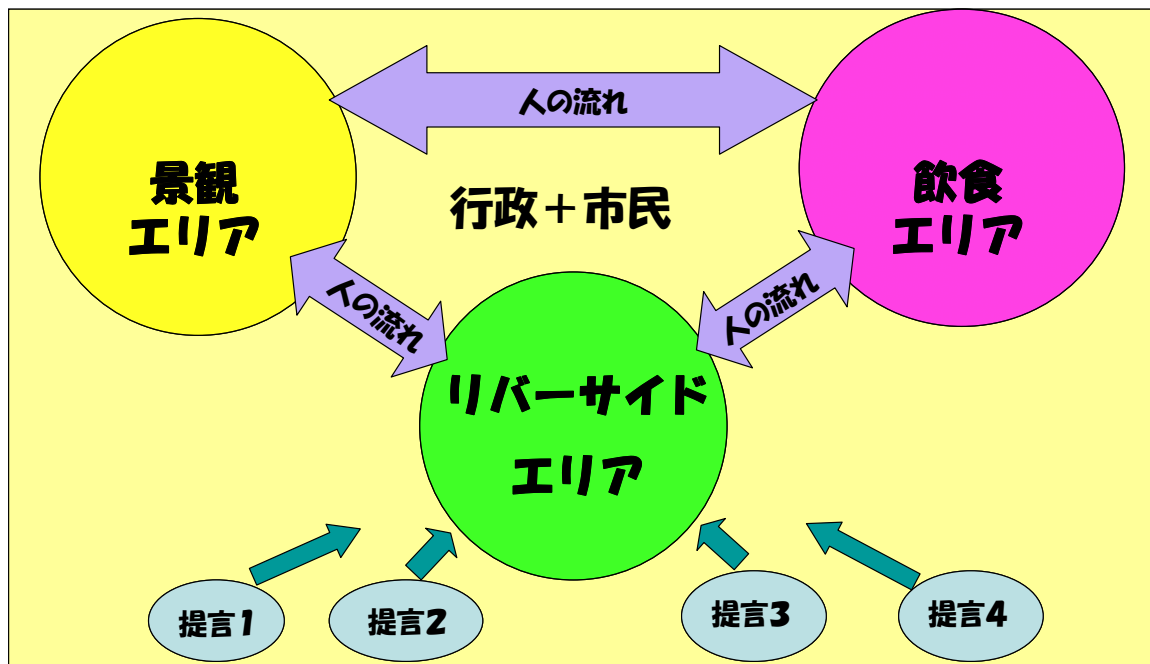
このような理想的なリバーサイドを目指す事が中心街の活気に繋がり、そしてくしろ全体への活気にも繋がっていくと考えます。今このくしろには、そんなまちづくりが必要なのではないのでしょうか。

## 提言のイメージ(図)

### リバーサイドのまちづくりビジョン

私たちはまず、この釧路市中心街を幣舞橋からマナボットにかけての「景観エリア」、末広歓楽街を中心とする「飲食エリア」、幣舞橋から釧路川河口にかけての「リバーサイド」エリアと3つに区分しました。これから提案する「リバーサイド」のまちづくりビジョンが、新たなまちづくりの起爆剤になり「景観エリア」「飲食エリア」の両エリアに大きな影響を与え、中心街を発展させる事となります。

### 提言のイメージ図



釧路市民でいつも賑わう中心街に！！

## **提 言** [ 新たなるリバーサイドへ向けて ]

### **提言1**

「幣舞橋イルミネーションによるまちづくり」

### **提言2**

「夕日を活用したリバーサイドのまちづくり」

### **提言3**

「耐震バースに伴う緑地帯の利用ビジョン」

### **提言4**

「国際交流センター前緑地帯の利用ビジョン」

## 提言1

### 「幣舞橋イルミネーションによるまちづくり」

前段でも述べているように、現在釧路の中心街は街並みの魅力が低下しています。そこで中心街、特に釧路市内外に釧路の魅力を一番発信できる場所として「幣舞橋」に着目し、そこをイルミネーションで飾る事で、この街並みの魅力の向上を図ります。

夏・冬それぞれに1～2ヶ月ほど期間限定で設置します。期間限定とすることで市民の期待感をあおり、各種イベントや広報媒体との連携で注目度を高めます。

今回、その実践として「幣舞橋イルミネーション事業」を実践致しました。この事業はリバーサイド周辺に活気をつけ、見ていただいた市民に楽しんでもらうことはもとより、まちづくりを考えるきっかけとして頂き、観光で来られた他地域の人には、釧路の元気な部分をPRすることを目的に実施いたしました。この事業に対するアンケートでは、約80%の方々が好感を持ったと答えております。

幣舞橋にイルミネーションがなかったとしても橋としての機能は変わりませんが、あることによって橋のイメージそして橋としての効果も数倍になったものと考えます。

私たちの結論として、幣舞橋イルミネーションによるまちづくりは、特に釧路市民を中心街に注目させることになり、その結果中心街に活気を与えこの釧路の魅力を向上させる事となります。



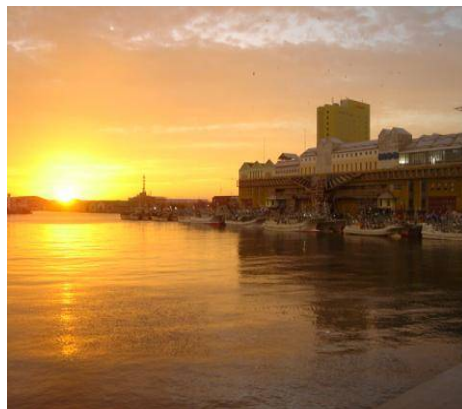
## 提言2

### 「夕日を活用したリバーサイドのまちづくり」

この釧路の夕日はとても綺麗で世界三大夕日と称されるほどの夕日があるにも関わらず、その認知度は低く、またまちづくりにあまり利用されていないのが現実です。

その素晴らしい夕日と、釧路を代表する場所の一つであるMOOを掛け合わせ、MOOに夕日を見るスポットを設置致します。耐震バースの整備によって倉庫群は撤去され、MOOの岸壁側からハッキリ夕日が見えることとなり絶好の夕日スポットとなることは間違いありません。

さらに、夕日を見ながらくつろげるスポットとして、ただ、夕日を見るスペースを設置するだけでなく、MOOの岸壁に屋台やカフェ、ビヤガーデンなど誰でも気軽に飲食できるブースを設置します。夕暮れ時、会社帰りにちょっと寄れる飲食スペース、さらに夕日を見ながら、その日の疲れを癒してくれるスポットとして、釧路のシンボルでもあるこのMOOを活用することで、MOOは名実共に釧路市民の施設となり、リバーサイドはさらなる発展を遂げ中心街の街作りへとつながっていきます。

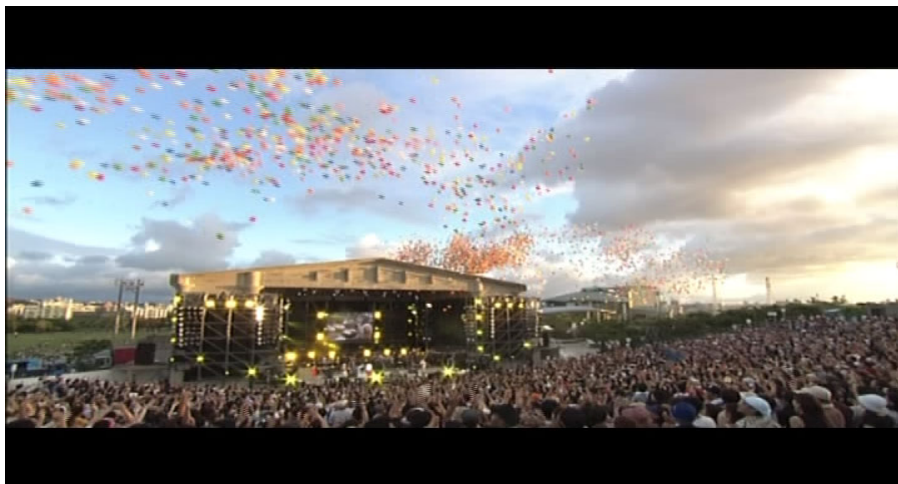


## 提言3

### 「耐震バースに伴う緑地帯の利用ビジョン」

釧路には今大型の旅客船が年間10隻以上も寄港しています。このフェリーの乗客の声を聞くと、街まで徒歩でいけるが、「店が少ない」「観光案内がない」「ターミナルやキオスクがない」「いかにも貨物埠頭という感じがする」といった、あまり良い印象がないようです。やはり、旅客船岸壁は遠方から来た旅客船と乗客の長旅の疲れを癒すとともに、初めて釧路を訪れる観光客の皆様に、良い印象を与えて楽しんでいただければなりません。客船岸壁は「歓迎の場」、釧路の玄関口として、市民と観光客がともに集える場として機能しなければいけないのです。そして耐震バースに伴う緑地帯は、単に緊急物資の保管場所としてではなく、通常時には、そのスペースを最大限利用することが出来る場所としなければ、中心街の街作りには繋がりません。

そこで、このスペースをイベントスペースとしての屋外ステージ設置を考えました。屋外ステージなら大きなホールと違い、ステージだけのスペースで足りすし、また、耐震バースの緊急物資保管場所として機能の邪魔にもならないと考えます。この屋外ステージは様々なジャンルで、さらにプロからアマチュアまで幅の広い層で利用できる屋外ステージとし、「霧フェス」「大漁どんぱく」等、既存のイベントにも対応させ釧路を代表するイベントスペースをつくります。またトイレや売店なども設置にも対応し、イベントやコンサートといった文化を通して市民が集える場として機能させる事でこのリバーサイドはくしろを代表する場所となり中心街へ人の足を向けさせることとなります。



## 提言 4

### 「国際交流センター前緑地帯の利用ビジョン」

耐震バースの整備に伴い、イベント広場が整備される事で、今までイベント広場として活用されてきたこの場所には憩いの広場を設置します。

この憩いの広場には親水公園を設置します。親水公園とは読んで字のごとく、水に親しむ公園です。なぜ親水なのか？これは、釧路は中心街に川のある街という特徴があるにも関わらず、川(水)と親しむことがほとんどありません。釧路川では遊べない、遊ぶところがない、という事が市民の一般的な認識になっています。川のある街なのに川に親しむことのない子供達のために親水公園を設置して、現在のイベント広場中心には噴水、周辺には遊具施設やベンチを設けて、総合的な憩いの広場をつくります。また、冬はイルミネーションによるホワイトイルミネーションパークとして活用することで、また新たな釧路の名物スポットとなる事が期待されます。

この中心街に憩いの広場を設置することで、このリバーサイドは常に市民が集うことの出来る活気あるリバーサイド、そして活気ある中心街へと生まれ変わるのです。



## 終わりに

### 「～新生リバーサイドの実現へ向けて～」

この提言書は、(社)釧路青年会議所 くしろの宝創造委員会が一年をかけ創造してきたまちづくりの形をまとめたものです。海と川に囲まれたこのまちにとって、リバーサイドは欠かすことの出来ないまちづくりであり、いまこのくしろには中心街の活気につながるまちづくりが必要なのだと考えます。ひとつの大きな建造物によるまちづくりではなく、出来る限り今ある魅力に輝きを加え、いくつかのまちづくりをかみ合わせることで、それ以上の効果を導き出したいと考えます。

そして提言にもあるように、リバーサイドに灯りをとすことで中心街に活気と市民の方々に、まちづくりへの意識を高めて頂きたく「幣舞橋イルミネーション事業」を実施致しました。

この事業はまだ規模も小さく実験的な事業ではありましたが、暖かい反響を頂き継続を望む声もあり、イルミネーションによるまちづくりを実証できたものと思います。

さらに耐震バースの整備事業に合わせ、提言で述べたまちづくりを実践できれば、このリバーサイドは、常に市民や観光客が集う憩いのスペースとして、名実ともにくしろを代表する場所となり、また新たなリバーサイドを誕生させることがこのくしろにとって重要なまちづくりと考えます。

既成概念にとらわれることなく、実績のないまちづくりに臆することなく、まちづくりの窓口を一つにし、新生リバーサイドを誕生させることで、今一度活気ある中心街を取り戻し、そして市民の方々にも、まちづくりについての意識を共有して頂きたいと考えます。

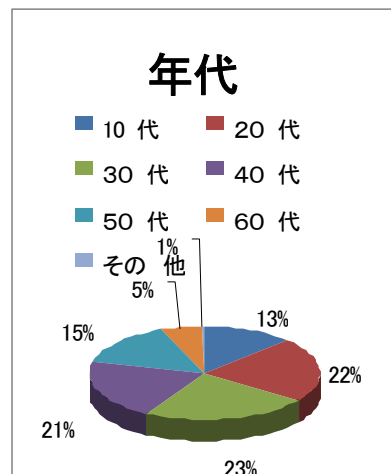
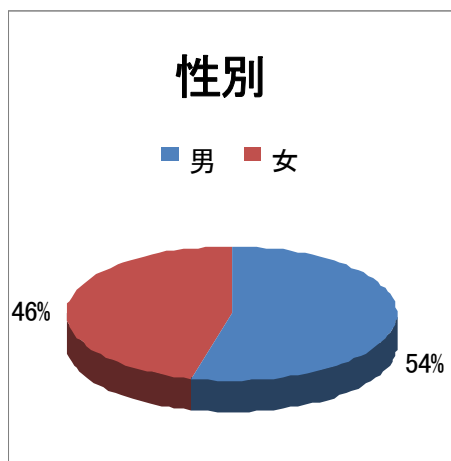
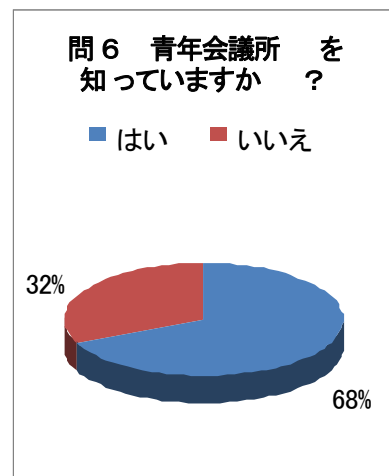
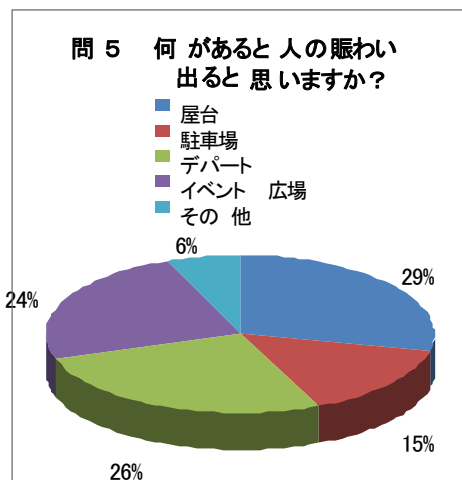
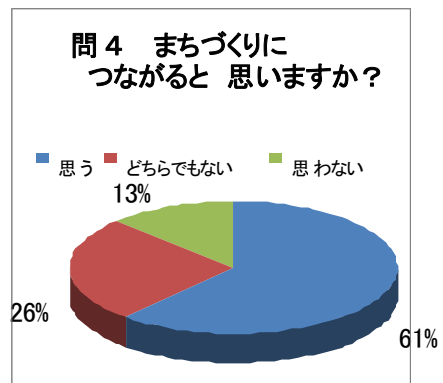
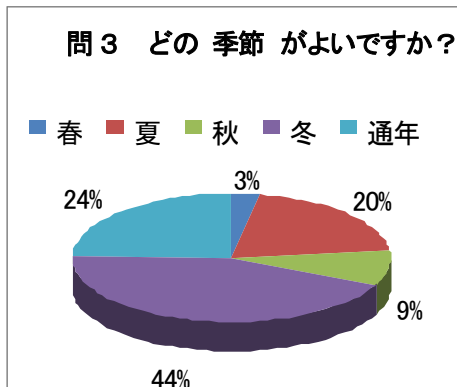
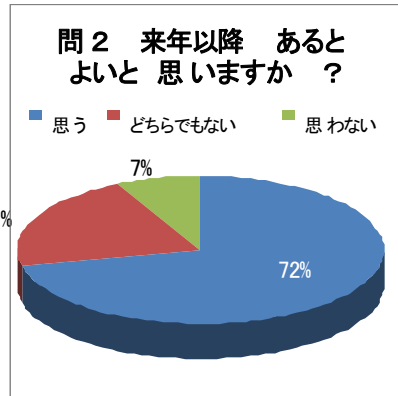
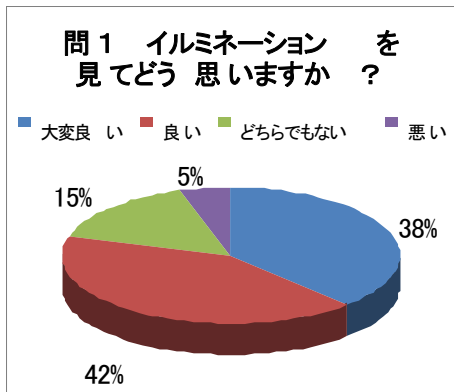
そんな活気ある釧路の創造に向け、(社)釧路青年会議所は、まちづくりを考える団体として、自分たちのまちの将来を考え、明るい豊かな社会を願い、この「リバーサイド周辺のまちづくりに関する提言書」を作成し理想のくしろを実現すべく、この提言書を提出致します。

平成19年11月11日

社団法人 釧路青年会議所

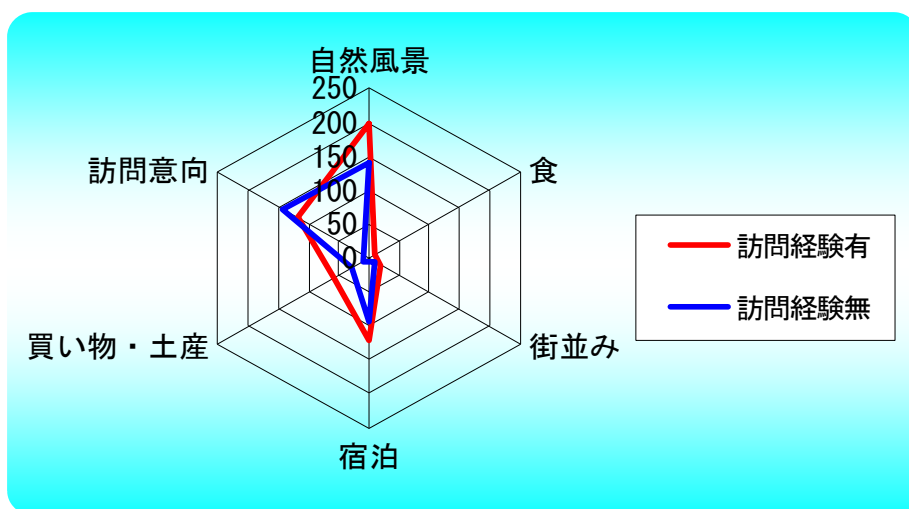
くしろの宝創造委員会一同

## 【参考資料】

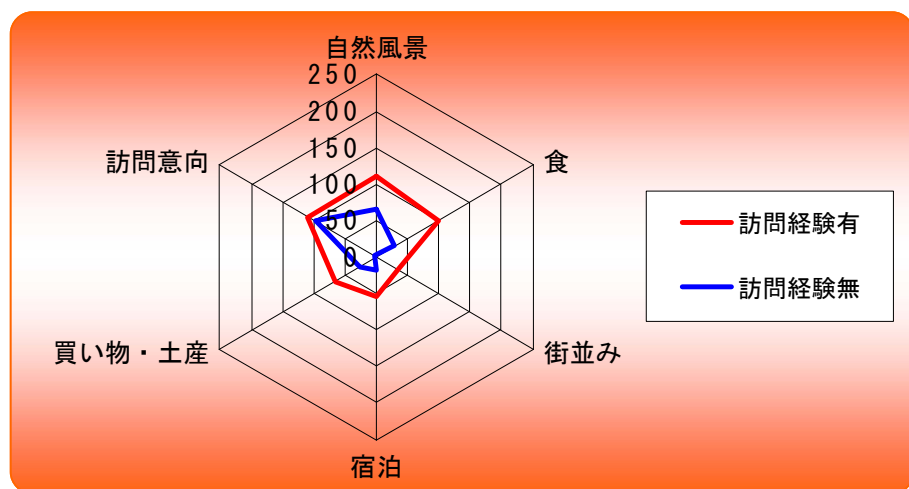


# 「北海道の魅力についてのアンケート」

## ①旧釧路市と旧阿寒町のデータの比較



阿寒湖畔  
(旧阿寒町)



旧釧路市

## ②旧釧路市と旧阿寒町の合算データ

